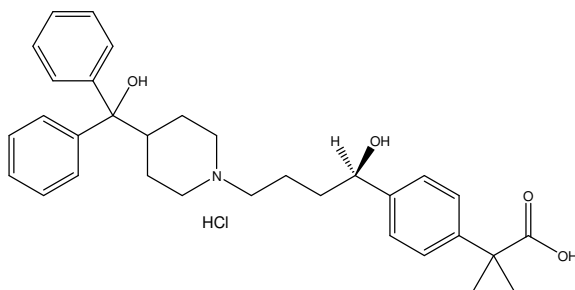
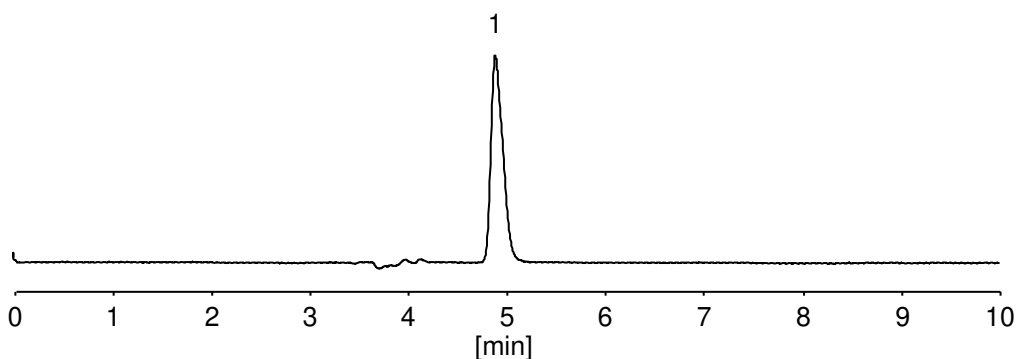


フェキソフェナジン塩酸塩錠溶出性試験のカラム選定条件

フェキソフェナジン塩酸塩は、第十八改正日本薬局方に収載され、抗アレルギー薬として用いられています。局方におけるカラム選定条件は、「理論段数が 3000 段以上、シンメトリー係数が 2.0 以下であるものを用いる」と定められています。なお局方におけるサンプル注入量は 50 μL と定められていますが、フェキソフェナジンのピーク形状悪化が確認されたため注入量を 5 μL に変更しています。また、カラム長も 10 cm から 15 cm に変更しました。この条件の下で溶出性試験を実施したところ CAPCELL PAK C₁₈ MGII S5(4.6 mm i.d. x 150 mm) は、理論段数 7100、シンメトリー係数 1.5 の値を示しました。



1. フェキソフェナジン 塩酸塩 (30 $\mu\text{g}/\text{mL}$)
Fexofenadine Hydrochloride (M.W. 538.1)



【HPLC Conditions】

Column	: CAPCELL PAK C ₁₈ MGII S5 ; 4.6 mm i.d. x 150 mm
Mobile phase	: Dissolve 0.85 g of monobasic sodium phosphate, 0.44 g of sodium perchlorate and 0.3 mL of phosphoric acid in 300 mL of water. To this solution add 700 mL of acetonitrile.
Flow rate	: 0.3 mL/min
Temperature	: 25 °C
Detection	: UV 220 nm
Inj. vol.	: 5 μL
Sample dissolved in	: H ₂ O

※ 1 $\mu\text{g}/\text{mL}$ = 1 ppm